第３部

脳卒中患者動向調査票（入院時）

Ⅰ．回収状況

入院時調査票の回収状況を表 1-1 に示す。回収数は合計で 1,700 人であった。

表1-1　入院時調査票回収状況

病院の所在圏域	回収数	
千葉	372	21.9%
東葛南部	462	27.2%
東葛北部	240	14.1%
印旛	173	10.2%
香取海匝	75	4.4%
山武長生夷隅	96	5.6%
安房	105	6.2%
君津	50	2.9%
市原	127	7.5%
合計	1,700	100.0%

Ⅱ．疾患

脳梗塞が 962 人（55.8%）、脳出血が 318 人（18.4%）であった（図 2-1）。なお回答方法が択一式ではなかったため、重複記載があり総数が 1,724 人となっている。

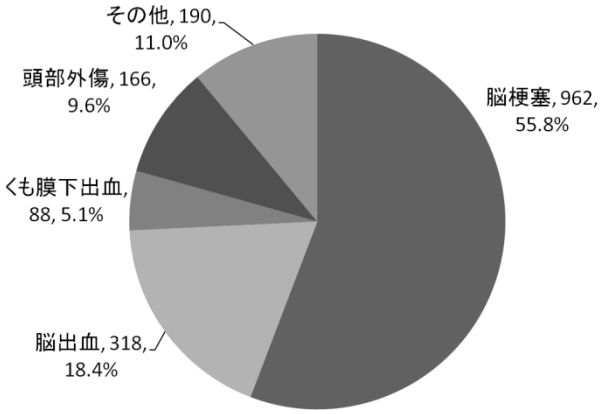

図 2-1　疾患　n=1,724　（単位：人、%）

Ⅲ．性別と年齢

性別は男性 986 人（58%）、女性 708 人（41.6%）であった。

年齢は 70 歳代が 484 人（28.5%）と最も多く、次いで 60 歳代、80 歳代が多かった。

性別と年齢の関係としては、男性は 70 歳代が 305 人（30.9%）と最も多く、女性は 80 歳代が 206 人（29.1%）と最も多かった（表 3-1）。

表3-1 性別と年齢 （人、%）

年齢	男性		女性		未記入		合計	
10歳未満	8	0.8%	4	0.6%	0	0.0%	12	0.7%
10代	10	1.0%	7	1.0%	0	0.0%	17	1.0%
20代	10	1.0%	9	1.3%	0	0.0%	19	1.1%
30代	24	2.4%	11	1.6%	0	0.0%	35	2.1%
40代	44	4.5%	28	4.0%	0	0.0%	72	4.2%
50代	142	14.4%	45	6.4%	0	0.0%	187	11.0%
60代	252	25.6%	136	19.2%	0	0.0%	388	22.8%
70代	305	30.9%	178	25.1%	1	16.7%	484	28.5%
80代	156	15.8%	206	29.1%	0	0.0%	362	21.3%
90歳以上	23	2.3%	80	11.3%	0	0.0%	103	6.1%
未記入	12	1.2%	4	0.6%	5	83.3%	21	1.2%
合計	986	100.0%	708	100.0%	6	100.0%	1,700	100.0%

Ⅳ．患者居住地

患者居住地を 2 次保健医療圏域別にまとめると、東葛南部圏域が 383 人（22.5%）と最も多く、次いで千葉圏域、東葛北部圏域であった（表 4-1）。参考として平成 21 年 4 月 1 日現在の圏域別人口を示した（表 4-2）。

表4-1 患者居住圏域

	患者数 （人、%）	
千葉	273	16.1%
東葛南部	383	22.5%
東葛北部	214	12.6%
印旛	213	12.5%
香取海匝	51	3.0%
山武長生夷隅	181	10.6%
安房	74	4.4%
君津	66	3.9%
市原	81	4.8%
県外	118	6.9%
未記入	46	2.7%
合計	1,700	100.0%

表4-2 圏域別人口(H21.4.1)

	人口 （人、%）	
千葉	947,832	15.2%
東葛南部	1,591,875	25.5%
東葛北部	1,445,391	23.2%
印旛	715,530	11.5%
香取海匝	311,642	5.0%
山武長生夷隅	470,148	7.5%
安房	141,408	2.3%
君津	330,286	5.3%
市原	285,033	4.6%
合計	6,239,145	100.0%

Ⅴ．入院経路

入院経路は、救急外来受診からの入院が 755 人（44.4%）と最も多く、次いで転院による入院が 448 人（26.4%）であった（図 5-1）。救急外来については、救急車による搬送、家人等による時間外の当該科への受診を含む。

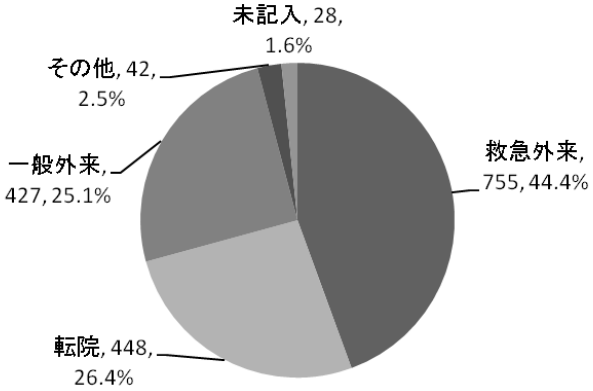

図 5-1　入院経路 n=1, 700　（単位：人、%）

Ⅵ．入院病床

一般病床への入院数が最も多く 940 人（55.3%）であった（図 6-1）。

なお、本調査では入院時の病床のみしか把握することができていないため、例えば ICU に入院した患者が 2 週間後に同一院内の回復期リハビリテーション病棟に転棟した場合などは、回復期リハビリテーション病棟への入院数には反映されず、ICU への入院としてのみ計上されている。

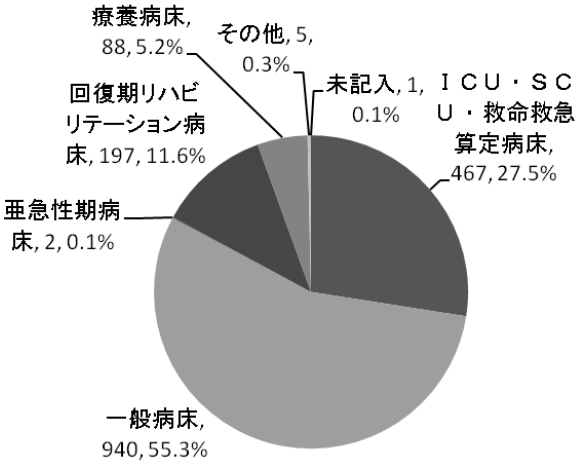

図 6-1　入院病床　n=1, 700　（単位：人、%）

Ⅶ. 入院目的

入院目的は、主疾患の急性期治療が 1,152 人（67.8%）と最も多く、次いでリハビリテーションが 352 人（20.7%）であった。なお、質問が択一式ではなかったため重複記載があった（図 7-1）。

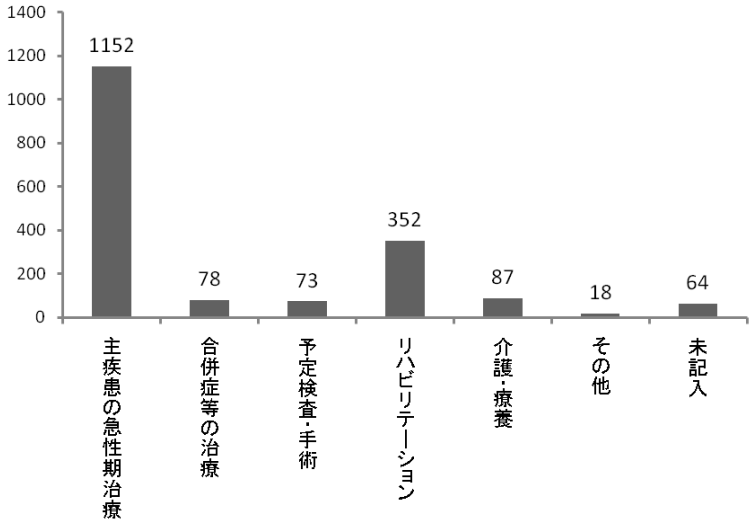

図 7-1　入院目的　n=1,700　（単位：人、%）

Ⅷ. 一般病床への入院目的

入院患者数が最も多かった一般病床へ入院した 940 人の入院目的は、主疾患の急性期治療が 731 人（77.8%）と最も多く、次いでリハビリテーションが 116 人（12.3%）であった（図 8-1）。

このことから、一般病床が脳卒中の急性期治療とリハビリテーションの両方の役割を担っている現状が認められた。なお、質問が択一式ではなかったため重複記載があった（図 8-1）。

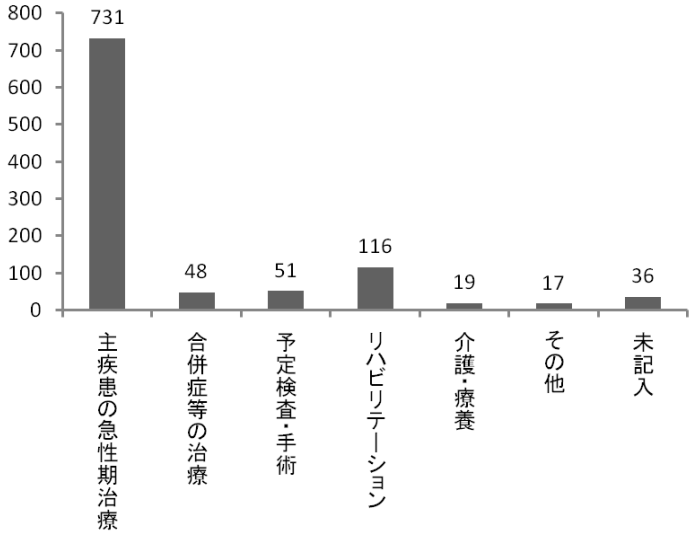

図 8-1　一般病床への入院目的　n=940　（単位：人、%）

Ⅸ．主疾患の急性期治療目的の入院患者の居住地と医療機関所在地

入院目的が主疾患の急性期治療である患者が、居住している圏域からどこの圏域の医療機関へ入院したのかを表 9-1 に示した。なお、択一式の設問ではなかったため、「合併症の治療」27 人、「予定の手術」2 人、「リハビリテーション」62 人、「その他」3 人の重複回答を含んだ回答となっている。

全ての圏域で、患者の居住圏域に入院している割合が高かったが、その割合は圏域によって差があった。

居住圏域の医療機関へ入院していた割合が最も高かったのは、安房圏域の居住者で 52 人中 52 人（100%）であった。最も低かったのは山武長生夷隅圏域の居住者で 138 人中 55 人（39.9%）であり、39 人（28.3%）が市原圏域へ入院していた。

また医療機関側から見ると、千葉、東葛南部、印旛、安房では県外居住者を含む 7 圏域の居住者の入院を受けいれていた（未記入者は除く）。

県外居住者の受け入れが最も多い圏域は、東葛北部圏域で 16 人（29.6%）、次いで東葛南部圏域の 13 人（24.1%）であった。

表9-1 主疾患の急性期治療目的の入院患者居住地と医療機関所在地 （上段：人、下段：%）

		入院先医療機関所在地									
		千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山武長生夷隅	安房	君津	市原	合計
患者居住圏域	千葉 n=179	174	3		1		1				179
		97.2	1.7		0.6		0.6				100.0
	東葛南部 n=300	17	273	4	6						300
		5.7	91.0	1.3	2.0						100.0
	東葛北部 n=144	1	11	127	2		1	1		1	144
		0.7	7.6	88.2	1.4		0.7	0.7		0.7	100.0
	印旛 n=136	17	9	1	103	1	4	1			136
		12.5	6.6	0.7	75.7	0.7	2.9	0.7			100.0
	香取海匝 n=36				7	29					36
					19.4	80.6					100.0
	山武長生夷隅 n=138	19	1		9	3	55	12		39	138
		13.8	0.7		6.5	2.2	39.9	8.7		28.3	100.0
	安房 n=52							52			52
								100.0			100.0
	君津 n=52	2						3	41	6	52
		3.8						5.8	78.8	11.5	100.0
	市原 n=51		2					1		48	51
			3.9					2.0		94.1	100.0
	県外 n=54	3	13	16	6	2	4	5	1	4	54
		5.6	24.1	29.6	11.1	3.7	7.4	9.3	1.9	7.4	100.0
	未記入 n=10	5	2	1			1			1	10
		50.0	20.0	10.0			10.0			10.0	100.0
	合計 n=1,152	238	314	149	134	35	66	75	42	99	1,152
		20.7	27.3	12.9	11.6	3.0	5.7	6.5	3.6	8.6	100.0

は5%以上の圏域を示す

X．リハビリテーション目的の入院患者居住地と医療機関所在地

入院目的がリハビリテーションである患者が、居住している圏域からどこの圏域の医療機関へ入院したのかを表 10-1 に示した。ここでも、前節と同様に「主疾患の急性期治療」62 人、「合併症の治療」22 人、「予定の手術」2 人、「介護・療養」13 人、「その他」2 人の重複回答を含んだ回答となっている。

患者の居住圏域から見ると、居住圏域への入院が最も多いとは限らなかった。千葉圏域の居住者は居住圏域の医療機関に入院していたのは 14 人（45.2%）であり、15 人（48.4%）は東葛南部に入院していた。また、印旛圏域居住者では 25 人（43.1%）が居住圏域に入院していたが、29 人（50%）は東葛南部圏域へ入院していた。 君津圏域居住者についても 12 人中 7 人（58.3%）が市原圏域へ入院していた。

山武長生夷隅圏域の居住者は、38 人中 19 人（50%）が居住圏域へ入院していたが、他圏域への分散が最も大きく、7 圏域に分散して入院していた。

一方、安房圏域居住者は 100%、東葛南部圏域居住者は 97.2%が居住圏域へ入院していた。

県外居住者は 35 人中 14 人（40.0%）が東葛北部圏域へ入院していた。

医療機関側から見ると、東葛南部圏域は県外居住者を含む８圏域の患者を受け入れていた（未記入者除く）。

表10-1 リハビリテーション目的の入院患者居住地と医療機関所在地 （上段：人、下段：%）

		入院医療機関所在地									
		千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山武長生夷隅	安房	君津	市原	合計
患者居住圏域	千葉 n=31	14	15				1		1		31
		45.2	48.4				3.2		3.2		100
	東葛南部 n=71	1	69	1							71
		1.4	97.2	1.4							100
	東葛北部 n=49	1	7	39	1			1			49
		2.0	14.3	79.6	2.0			2.0			100
	印旛 n=58		29	2	25	2					58
			50.0	3.4	43.1	3.4					100
	香取海匝 n=20		1			18	1				20
			5.0			90.0	5.0				100
	山武長生夷隅 n=38	9	1		1	4	19	3		1	38
		23.7	2.6		2.6	10.5	50.0	7.9		2.6	100
	安房 n=13							13			13
								100.0			100
	君津 n=12	1						2	2	7	12
		8.3						16.7	16.7	58.3	100
	市原 n=20	5	1							14	20
		25.0	5.0							70.0	100
	県外 n=35	2	9	14		7	1	1	1		35
		5.7	25.7	40.0		20.0	2.9	2.9	2.9		100
	未記入 n=5	1	3							1	5
		20.0	60.0							20.0	100
	合計 n=352	34	135	56	27	31	22	20	4	23	352
		9.7	38.4	15.9	7.7	8.8	6.3	5.7	1.1	6.5	100

は10%以上の圏域を示す